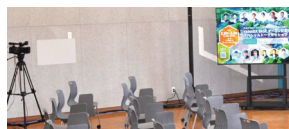


廃校を活用した複合施設がオープン

やまがBASE



▶施設のコンセプトについて語る中原功寛CEO。後ろは島田裕太COO



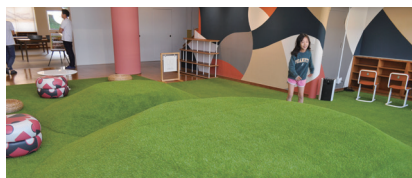
▲ピッチイベントやプレゼン、動画配信などでの利用を想定した、元音楽室を改装した「イノベーションスタジオ」



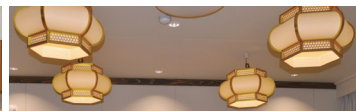
▲二日間開かれたオープンイベントには、地元住民はじめ、関係者から大勢の入場者が詰めかけた



▶時間当たりの二通りの利用と、会員制の二通りの利用法が選べるコワーキングスペース



▲元図書コーナーを改装したライブラリースペース。チブサン古墳を模した人工芝スペースや、装飾古墳の文様を取り入れたクッションなど、読書の時間を楽しめる工夫が施されている



▲八千代座、さくら湯といった山鹿を代表する施設をモチーフに内装をデザインしたレクリエーションスペース。ランプシェードには、山鹿灯籠のデザインが使われている

コワーキングスペース、複合施設運営・やまがBASE^{かつもと}(株)(山鹿市、中原功寛CEO、島田裕太COO)は4月1日、2017年に閉校した山鹿市鹿央町の千田小学校跡地(敷地面積約3万㎡、延べ床面積約3千㎡)に建設を進めていた複合施設「iReactionハブYAMAGABASE」をオープンした。

同施設はコワーキングスペース、シェアオフィスなどのイノベーション支援施設のほか、ワーケーションや農泊などの宿泊施設を備える。設計・施工は、商業施設のプロデュース事業を手掛ける東京都の(株)スペース3月30、31日に開かれたオープン記念イベントには、関係者はじめ地元住民ら大勢の入場者で賑わった。中原代表は昨年、(株)PRTIMESが企画するエイプリルドリーム企画で1年後の施設オープンを表明。今回目標通り夢を実現した結果となった。